



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和元年度 第6号
令和元年8月28日

ひまわりのひみつ

校長 吉田 正行

今日から2学期が始まり、元気な子供たちの声が学校中に響くようになりました。長い休みの間に、日頃会えない人と会い、いろいろな体験をして、たくましくなった子供たちの顔を見ることができてとても嬉しいです。

さて、8月初旬にイギリスで行われたゴルフの全英女子オープンで20歳の渋野日向子選手が日本人42年ぶりのメジャー優勝を飾り、その笑顔あふれるプレーぶりが大きな話題となりました。試合の様子を観ながら渋野選手の名前の「日向子」と素晴らしい笑顔から「ひまわり」の花を思い浮かべました。

瓜生小学校でも3年前から全校で震災に負けなかった「ど根性ひまわり」を育て、収穫した種を次年度につなぐとともに地域の方々に広める活動をしています。見慣れたひまわりですが、今年は詳しく観察し、調べることにしました。

ひまわりはいつも見ているから大きな発見はないだろうとたかをくくっていましたが、よく観察するとおもしろいことがたくさん分かりました。まず、本葉の位置が、つぎの葉とのあいだに一定の角度を保ちながら、茎のまわりをらせん状にのぼっているのです。そして、どの葉にも太陽の光がしっかり当たるようになっています。

また、ひまわりの花は一つの大きな花に見えますが、実際には舌状花（ぜつじょうか）と管状花（かんじょうか）の2種類の花が集まってできています。花びらようになって外側に咲いている舌状花（動物の舌のようになっていることからその名がついたそうです）は、かざりの花で実を結びません。きれいな黄色で注意を引き付け、ハチやハナムグリなど呼び寄せる役割をしています。そして内側に密集している管状花の先の花粉を体いっぱいにつけさせ、受粉の手助けをさせるのです。

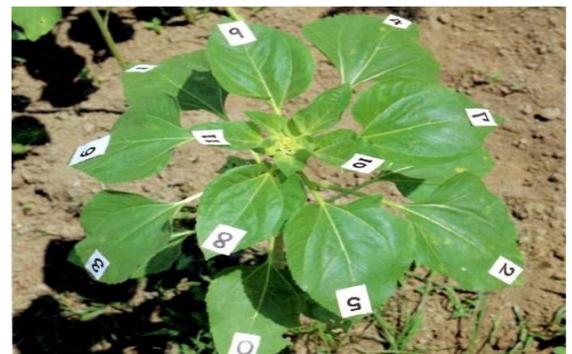
見慣れたことでもじっくり見ると今まで知らなかった新しい発見があります。2学期の準備をする教職員とも、子供たちのことをもっとじっくり、深く見ていきましょうと話しました。

一つ一つの花が集まって大輪の花となり、その花から一粒一粒の種がしっかり実るひまわりのように一人一人が笑顔でしっかりと成長できる瓜生小学校にしていきたいと心を新たにしています。

2学期は大きな行事がたくさんありますが、教職員、保護者、地域がさらに連携を深め、実りのある学期にしていきたいと思えます。ご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。



■種から育てたひまわりを花壇に植え替えました



■本葉がのびた順番。らせん状に葉が生え傘のようにどの葉にも日光があたるようになっています



■お花倶楽部のお手伝いもあり、今年もたくさんのひまわりの花が咲き、2学期の子供たちを迎えてくれました。